

— 企画展報告 —

企画展「平沢屏山とその時代」

2022年（令和4）は、アイヌの人びとを描いた絵師として名を残した平沢屏山（ひらさわびょうざん）の生誕200年にあたるため、企画展「平沢屏山とその時代」を開催しました。

平沢屏山は、現在の岩手県花巻市大迫町に生まれ、弘化年間（1845年～1848年、屏山が20歳代の頃）に、箱館に渡ってきました。箱館では、船乗りを相手に船絵馬を売って生計を立てたことから「絵馬屋」と呼ばれ親しまれていました。やがて、場所請負商人福島屋杉浦嘉七（二代目・三代目の時代にあたる）の知遇を得て、嘉七の請負場所であるトカチ（十勝地方）やホロイズミ（日高地方の幌泉郡）などを訪れ、時にはアイヌの人びとと生活を共にしながらその風俗を描くようになります。以後、アイヌ絵師として名を挙げ、1876年（明治9）8月に亡くなるまで、生涯を函館で過ごし、多くのアイヌ絵を残しました。

屏山のほかにもアイヌ絵師として名を残した人物はいましたが、アイヌの人びとと生活を共にした経験と確かな観察眼、それを絵にする技量を備えた屏山は高く評価され、アイヌの人びとの風俗と器物を正確にとらえた絵は、アイヌ文化を読み解くカギとして重要な役割を果たしています。

一方で、屏山は、気分が乗らなければ筆を執らず、身なりは構わない、酒好きで、子供好きだったなど、ちょっと浮世離れた奇人ぶりも伝えられています。絵を描いてお金を得ると、飲み歩いてしばしば家に帰るのを忘れ、酔って野原に寝転がり、時には溝にはまっていたり、他人の家の屋根で眠ってしまうこともありました。晩年はアットゥシや破れた着物などを着て、むさ苦しい風体で腰に矢立てを差して歩いていた、酔って歩いていると子供たちが付いてきていたずらをしますが、少しも怒ることがなく、大笑いで仙人のようだった、といった回想も残されています。

屏山が活躍した時代は、幕末から明治にかけての箱館（函館）は、ペリーの来航や箱館戦争など、日本の歴史

のなかでも大きな出来事の舞台となりました。幕府や新政府が蝦夷地（北海道）の拠点箱館（函館）に置いたため、この時期は函館にとっても大きな「変化」の時代であったといえます。

蝦夷地全体を見ると、本州から渡ってくる「和人」の勢力が増し、「蝦夷地」やアイヌの人びとが次第に日本に組み込まれ、「北海道」が築かれた時代でもありました。

このような時代背景は、まさにアイヌ絵師としての屏山を生んだ素地でもあったことから、屏山の作品だけではなく、「その時代」として、屏山の住んだ箱館（函館）のまちや蝦夷地（北海道）の状況もあわせて展示しました。

（奥野 進）



— 収集・収蔵 —

— 普及（展覧会） —

収蔵資料概数一覧

※令和5年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	455件	1,709点
地質鉱物	2,036件	2,936点
植物	10,335件	10,358点
動物	11,139件	24,288点
考古	11,527件	585,117点
歴史	6,632件	23,636点
民俗	7,465件	21,825点
民族	6,405件	12,419点
美術工芸	6,751件	8,134点
合計	62,745件	690,422点

※一部の寄託資料を含みます。

※一括は1件1点と計算しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施しているため、収蔵点数が変動しています。

※北洋資料館旧蔵、戸井・恵山町旧蔵資料は含みません。

令和4年度 新収蔵資料

■幸尋常小学校校章 ほか	8点
【函館市：三澤光子 寄贈】	
■レコード	1点
【函館市：加賀晃一 寄贈】	
■官板実測日本地図版木 ほか	57点
【函館市中央図書館 移管】	
■マッチ	232点
【函館市：山寺 寿恵子 寄贈】	
■箱館大戦争之図	1点
【釧路市：蝦名大也 寄贈】	
■「寒梅」図屏風 ほか	14点
【函館市：石田勝也 寄贈】	
■梁川剛一挿絵	2点
【東京都港区：柁島良介 寄贈】	
■太刀 銘康光 ほか	5点
【函館市：石田勝也 寄贈】	
■榎本武揚書 ほか	4点
【函館市：林崎光弘 寄贈】	
■箱館開港絵巻	1点
【購入】	

(敬称略)

企画展

■平沢屏山とその時代

令和4年度は箱館（函館）を拠点としてアイヌの人びとを描いた平沢屏山に焦点をあて、「平沢屏山とその時代」展を開催しました。本展覧会では、屏山の作品や人物像だけではなく、屏山を生み出した当時の箱館（函館）や蝦夷地（北海道）に関する資料をあわせて展示しました。



期 間	令和4年6月28日（火）～10月16日（日）
開館日数	90日
出品協力	函館市中央図書館、北海道函館中部高等学校 ほか
出品資料	アイヌ風俗12ヶ月屏風 ほか 82点
観覧者数	4,530名
関連事業	展示解説1回
担 当	奥野

常設展・収蔵資料展

■はこだての歩み展（通史・常設展）

第1展示室では引き続き、現代までの函館の歩みを紹介する通史展示を行いました。今回の展示替えでは、北方探検家として知られる幕臣、近藤重蔵による蝦夷地図、「蝦夷地図式 乾」（函館市中央図書館蔵）や1782年（天明2）に遭難した大黒屋光太夫らの漂流とロシア滞在中の見聞記「北槎聞略」、1808年（文化5）から2年にわたった間宮林蔵の樺太見聞記「北蝦夷図説」、間宮林蔵とともに樺太を探検した松田伝十郎による「北蝦談」な



ど、複数の北辺情報が集められた図巻「北蝦夷及び赤蝦夷図絵」（函館市中央図書館蔵）などを展示しました。

期 間	通年
開館日数	開催中
出品協力	函館市中央図書館・函館市教育委員会文化財課 ほか
出品資料	ペリー提督寄贈の洋酒びん ほか 258点
担 当	奥野



■刀と鐔(収蔵資料展)

令和4年10月から、第2展示室において収蔵資料展「刀と鐔」を開催しています。当館所蔵の刀10振と、堤清治郎氏から寄贈された刀の鐔を17点展示しました。また、12月には個人の方から新たに刀3振を寄贈いただき、展示しています。

期 間	令和4年10月25日(火)～ 令和5年6月18日(日、予定)
開館日数	開催中
出品資料	刀 銘源正雄 ほか 27点
担 当	内田



■先史時代の函館(収蔵資料展)

現在ロビーでは、旧石器時代から擦文時代（文化）までの資料を展示しています。縄文時代を中心に、旧石器から古代までの土器や石器、土偶、骨角器などを展示しています。なかでも旧石器時代のマンモスの牙は必見です。



期 間	令和4年6月28日(火)～令和5年3月31日 (以後継続)
開館日数	開催中
出品資料	206点
担 当	福田、佐藤

■雛人形展示(収蔵資料展)

旧家に伝わる幕末から明治初期頃と思われる段飾りの雛人形、大正期の民家で飾られていた御殿雛、明治20年に湯の川で開業した「林長館」で飾られていた雛飾りの中から、他の雛飾りでは見ることのできない「花車」、人形ではなく屏風という形で飾られた「大和絵雛屏風」を展示しました。



ロビー展

■市制100年記念 写真でたどる函館の百年

大正11年（1922）8月1日、函館・札幌・小樽・旭川・釧路・室蘭が市制を施行しました。市制施行から100年、函館の歩みを写真パネル40点と昭和9年に函館でも開催された日米親善野球に関する実物資料等25点を展示・紹介しました。写真パネル作成にあたり個人の方や企業の方々にご協力を賜りました。



期 間	令和4年6月28日(火)～10月16日(日)
開催日数	77日
出品資料	日米親善野球写真ほか19点
担 当	保科

展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期間	4/1～6/19			6/21 ～ 6/26	6/28～10/16			10/18 ～ 10/23	10/25～3/31			
ロビー	ロビー展 「函館の縄文遺跡」 担当:佐藤・福田			展 示 替 え	ロビー展(7/8～) 「市制100年記念 写真でたどる函館の百年」 担当:保科・内田			展 示 替 え	収蔵資料展 「先史時代の函館」 担当:福田・佐藤			
第1展示室	収蔵資料展 「はこだての歩み」 (6/7-9一部展示替え) 担当:奥野				収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当:奥野				収蔵資料展 「はこだての歩み」 (11/8-11一部展示替え) 担当:奥野			
第2展示室	収蔵資料展 「函館シェル・コレクション」 担当:奥野				企画展 「平沢屏山とその時代」 担当:奥野				収蔵資料展 「刀と鐔」 担当:内田			
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:内田・保科				収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:内田・保科				収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:内田・保科			

第3展示室右奥 1/28～3/30「雛人形展」 担当:保科

第3展示室右奥 1/28～3/30「雛人形展」 担当:保科

令和4年度展覧会開催日数・入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～6/19,6/28～ 10/16,10/25～3/31	6/28～10/16	
開催日数	188日	90日	278日
有料入館者	4,476人	3,598人	8,074人
無料入館者	5,267人	932人	6,199人
入館者合計	9,743人	4530人	14,273人

— 普及（講座） —

令和4年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講 座 名	開催期日	講師	参加/定員
1	渡り鳥の観察会	5月14日(土)	外部講師	14/20
2	博物館旧1号館公開	5月28日(土)		194
3	夏休み自由研究「日本画でうちわづくり」	7月30日(土)	外部講師	10/10
4	夏休み自由研究「大森浜の貝で標本箱をつくろう」	7月31日(日)	外部講師 奥野	15/15
5	夏休み自由研究「鹿の角で縄文時代の釣り針をつくろう」	8月2日(火)	佐藤 福田	9/10
6	夏休み自由研究「五稜郭探検隊！」	8月5日(金)	外部講師	17/10
7	夏休み自由研究「粘土で縄文時代の土偶をつくろう」	8月6日(土)	佐藤 福田	14/15
8	親子で西部地区めぐり	8月7日(日)	外部講師	7/20

9	夏休み自由研究「黒曜石で矢じりをつくろう」	8月12日(金)	外部講師	14/15
10	箱館戦争ゆかりの地巡り	9月9日(金)	外部講師	18/15
11	秋の美術鑑賞会 波響をみる	9月10日(土)	奥野 佐藤	8/12
12	博物館旧1号館公開	9月24日(土)	外部講師	115
13	千島アイヌのテンキ技法でコースターをつくろう	10月4日(火)	外部講師	6/6
14	アイヌの花ござ編みの技法でコースターをつくろう	10月9日(日)	外部講師	10/10
15	体験！日本画講座	11月5日・6日、12日・13日、26日・27日(土・日)	外部 講師	5/8
16	函館写真の歴史	12月3日(土)	外部講師	14/20
17	忘れない！函館大火	3月22日(水)	保科 内田	7/20

計 477名



自分で拾った貝殻を並べて種類を種類べました。

【展示解説セミナー】

No.	講 座 名	開催期日	講師	参加
1	展示解説セミナー 企画展「平沢屏山とその時代」	8月13日(土)	奥野	5

計 5名

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数／参加数
1	展示解説	通 年	20件364名
2	バックヤードツアー	通 年	7件137名
3	見せます！お宝公開！	4/1～11/3の開館日	1件 3名
4	函館博物館見学	4/1～11/3の開館日	1件 23名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数 計 29件／527名

■夏休み自由研究「黒曜石で矢じりをつくろう」

夏休みには、縄文文化に関わる三つの講座を実施しました。このうち黒曜石を使った矢じりづくりでは、今金町教育委員会の宮本さんを講師に、石器づくりの原理を習ってから石を打ちかいて加工し、できあがった矢じりで弓矢をつくり実際に的をねらって飛ばして、縄文時代の生活を体験しました。



■博物館一号館公開でのミニ展示

毎年実施している旧函館博物館一号（一号館）の公開ですが、令和4年度はブラキストンと福士成豊のミニ展示を行いました。

パネルでブラキストン、福士成豊の紹介を行うとともに、ブラキストンが使用していた望遠鏡や猟銃、福士成豊が鳥類剥製を保管していた標本箱などを展示しました。



ブラキストンゆかりの品々

協力機関等

安積徹、渡辺知子、宮本雅通、信太成子、平田篤史、田原良信、根本直樹、野戸崇治、佐藤理夫、尾崎渉、北海道教育大学函館校、市立函館博物館友の会（順不同・敬称略）

— 調査・研究 —

調 査

- 総務常任委員会行政視察（11月8日～10日）同行（熊谷）
- 江差町郷土資料館（令和4年12月16日）展示にかかる蝦夷錦の調査（奥野）
- 松前町教育委員会（令和4年12月22日）展示にかかる蝦夷錦の調査（奥野・福田）
- 北海道博物館（令和5年1月26日）総合ミュージアム構想に伴う施設調査（熊谷・奥野）
- 旭川市博物館（令和5年2月7日～10日）日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（B）「北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究」（研究代表者：右代啓視）にかかる調査（福田）
- 上ノ国・乙部・江差・松前町（令和5年2月14～16日）展示にかかる蝦夷錦の調査（奥野・福田）
- 佐井村海峡ミュージアムほか（令和5年3月11～12日）日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（B）「サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究」（研究代表者：中村和之）にかかる調査（奥野・福田）
- M家、K家、N家にかかる資料調査（通年）

研究論文・コラム等

【研究論文等】

- 奥野進「学術調査と連携した博物館事業の展開—地域博物館での成果還元型事業の一例」『市立函館博物館研究紀要』33 市立函館博物館 2023（電子版）
- 内田彩葉「〈資料紹介〉The Illustrated London News」『市立函館博物館研究紀要』33 市立函館博物館 2023（電子版）
- 奥野進「『平沢屏山とその時代』展から」北海道芸術学会「北海道アートフォーラム」web版
- 奥野進「市立函館博物館 開拓使時代からの資料を含むコレクション管理」（金山喜昭編『博物館とコレクション管理—ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用』雄山閣 2022年6月28日発行）
- 関根達人・中村和之・三宅俊彦・奥野進「銭を指標とした伝世タマサイの編年試案」『市立函館博物館研究紀要』33 市立函館博物館 2023（電子版）

【新聞掲載コラム】

北海道新聞（夕刊 みなみ風）掲載「学芸員リポート」

- ・奥野進「標本の効用—お魚くわえたドラ猫？」（4月8日）
- ・保科智治「仏から神へ」（8月12日）
- ・内田彩葉「THE ILLUSTRATED LONDON NEWS」（9月30日）
- ・保科智治「いまさらですが」（11月25日）
- ・奥野進「資料が資料を呼ぶ？ 不思議な資料の巡り合わせ」（3月31日）

【道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿】

- ・奥野進「博物館の公開性」
- ・保科智治「ポン！ポン！」

研究発表等

- 伊達市教育委員会「2022シンポジウム 北黄金貝塚と北の縄文遺跡」（6月4日）講師（福田）
- 三内丸山遺跡センターさんまる縄文学講座「北海道の円筒土器文化」（6月11日）講師（福田）
- 「土方歳三の足跡を歩く」（6月11・12日）案内・講師（佐藤）
- 北斗市高齢者きらめき大学「函館の縄文」（7月1日）講師（佐藤）
- 函館市亀田老人大学「平沢屏山とその時代」（8月16日）講師（奥野）
- 北斗市浜分ふれあい大学「函館の縄文」（8月17日）講師（佐藤）
- 函館市高齢者大学青柳校「平沢屏山とその時代」（8月18日）講師（奥野）
- 北斗市高齢者せせらぎ大学「函館の縄文」（8月23日）講師（佐藤）
- 七飯町歴史館講座（夜の博物館）「箱館写真とデジタルアーカイブ」（9月7日）講師（奥野）
- 盛岡市立松園中学校（函館市民会館）「アイヌの人びとについて」（9月8日）講師（奥野）
- 国立アイヌ民族博物館「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」「多くの資料を保有する小規模館での取り組み」（11月11日）講師（奥野）
- ネイパル森「道南の縄文深掘ツアー」（11月19日）講師（福田）
- 旭岡図書室活性化事業 資料紹介「デジタル画像で見るはこだて（蝦夷地・北海道）」（11月29日）講師（奥野）
- 港図書室活性化事業 資料紹介「デジタル画像で

見るはこだて（蝦夷地・北海道）」（12月6日）講師（奥野）

印刷物発行

- 令和4年度企画展示図録『平沢屏山とその時代』市立函館博物館 令和4年6月28日発行 50頁
- 『市立函館博物館研究紀要』33（電子版）市立函館博物館 令和5年3月31日発行

— 協力事業等 —**協力事業****【資料貸出】**

- 市立函館博物館郷土資料館常設展示 明治期の歴史・民俗資料等を展示
- 函館市北方民族資料常設展示 アイヌ・北方民族資料等を展示（7・11月展示替え）
- 函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」挿し絵・彫塑等を展示
- 函館市北洋資料館常設展示 北洋漁業関係資料を展示
- 函館市戸井西部総合センター展示コーナー 戸井の板碑・土器・石器等を展示
- えさん小学校展示コーナー 恵山地区出土の土器・石器等を展示
- 箱館奉行所常設展示（平成22年7月28日～）「エンフィールド銃」ほか 計6点貸出
- 函館市恵山教育事務所（恵山コミュニティーセンターで展示）「恵山町の縄文と世界遺産」（令和3年7月28日～）「日の浜遺跡出土品」ほか 計14点展示
- 函館市楳法華教育事務所「楳法華の縄文と世界遺産」（～11月29日）本館所蔵「日の浜遺跡出土品」ほか 計24点展示
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（平成28年4月1日～）「ヤス」ほか 計112点貸出
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（令和4年4月26日～10月30日）「浜町A遺跡出土ヒスイ大珠」計1点貸出
- 三内丸山遺跡センター 特別展「縄文マジカル＋（プラス）」（令和4年4月4日～7月15日）「動物土偶」ほか 計2点貸出
- 福島県立博物館・京都府京都文化博物館「新選組展2022—史料から辿る足跡—」（令和4年7月7日～12月8日）「戦友姿絵」計1点貸出
- 三内丸山遺跡センター 世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJOMON」（令和4年6月

12日～8月22日) 「舟形土製品」ほか 計21点貸出

■石川県立歴史博物館・小樽市総合博物館 令和4年度アイヌ工芸品展「アトゥイー海と奏でるアイヌ文化」(令和4年9月1日～令和5年3月10日) 「イクニヒ」ほか 21点貸出

■国立アイヌ民族博物館 第5回特別展「イコロウエカリレーアイヌ資料をコレクションする」(令和4年9月6日～12月2日) 「樹皮衣」ほか 29点貸出

■函館市北洋資料館 開館40周年記念事業特別展「函館市の魚・イカ」展(令和4年9月14日～11月5日) 「手動イカ釣り機」ほか 計15点貸出

■北海道立函館美術館 「令和来し方行く末 道南美術クロニクル」(令和4年12月13日～令和5年3月10日) 「春宵」(笹野順太郎)ほか 計31点貸出

【収録・出演】

■FMいるか「縄文散歩」原稿提供(佐藤)

■NHKBSスペシャル「武田真治の縄文アドベンチャー」(4月14日～16日) 出演(佐藤)

■NHK「北海道まるごとラジオ 世界遺産登録1年! 知られざる縄文の魅力」出演(6月16日)(福田)

■FMいるか「旧函館博物館1号公開」紹介(5月20日) いるか号中継(保科・内田)

■FMいるか「市制100年記念 写真でたどる函館の百年」紹介(7月7日) いるか号中継(保科)

■FMいるか 企画展「平沢屏山とその時代」紹介(7月27日) 収録(奥野)

■FMいるか「北の縄文スタンプラリー、戦友姿絵人気投票」紹介(8月5日) いるか号中継(福田・内田)

■FMいるか「カルチャーナイト」紹介(9月16日) いるか号中継(博物館実習生)

【会議出席等】

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和4年度第1回役員会(4月27日、厚沢部町) 出席(熊谷・福田・奥野)

■北海道博物館協議会 第1回役員会(5月19日) 出席(熊谷)

■北海道博物館協会 第4回あり方検討委員会(6月2日) 出席(奥野)

■令和4年度北海道博物館協会第2回役員会・第60回北海道博物館大会・総会(7月14・15日、士別市) 出席(熊谷・奥野)

■令和4年度第1回 国立アイヌ民族博物館ネット

ワーク運営委員会(7月8日) オンライン出席(奥野)

■アイヌ政策推進ネットワーク会議(7月29日) オンライン出席(熊谷・三浦・奥野)

■「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」研修部会打合せ(8月12日) オンライン出席(奥野)

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和4年度第2回役員会(9月21日、江差町) 出席(福田)

■三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡特別研究推進事業 令和4年度第1回「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」研究会議(11月6日) オンライン出席(福田)

■「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」研修会(11月10・11日) 出席(奥野)

■北海道博物館協議会 第3回役員会(12月1日) 出席(熊谷)

■道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和4年度第3回役員会(12月21日、江差町) 出席(熊谷・福田・奥野)

■三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡特別研究推進事業 令和4年度第2回「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」研究会議(1月28日) オンライン出席(福田)

■令和4年度北前船日本遺産推進協議会学芸員セミナー(3月1日) オンライン参加(奥野・内田)

■令和4年度第2回 国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会(3月17日) 出席(奥野)

■三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡特別研究推進事業 令和4年度第3回「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」研究会議(3月18日) オンライン出席(福田)

【後援】

■函館アイヌ協会主催「イチャルパ(先祖供養の儀式)」(10月8日) 後援

【その他】

■オリジナルフレーム切手「函館の世界遺産 縄文遺跡群」・「函館の縄文遺跡」への協力

■市立函館病院100周年記念事業「映像で振り返る市立函館病院～函病と医療 今昔～」パネル展示への協力

■函館市中央図書館での出張展示

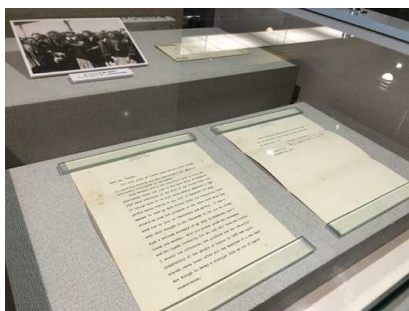
令和4年度は、9月30日に展示替えを行い、商店や会社経営の傍ら、絵を描いた酒谷小三郎(1895～1957)の作品「花と椅子」「自画像」「花瓶の花(青)」「花瓶の花(黄)」4点を展示しました。これ

らの絵は、ご子孫から令和3年度に博物館に寄贈されたもので、展示や解説は博物館実習生が担当しました。

■ヘレン・ケラーからの手紙

4月29日から10月31日までの期間限定で、函館市北方民族資料館の常設展示室内の一角に、ヘレン・ケラーからの手紙を展示しました。手紙は、令和3年度に博物館に寄贈されたものです。

内容は、1937年（昭和12年）にヘレン・ケラーが来日し、長万部のアイヌと交流した時の写真を送ったことに対する礼状で、1949年（昭和24）に、北海道立八雲高等学校の生徒に宛てたものです。意外な交流に来館者は興味深く見入っていたようです。



ヘレン・ケラーからの感謝の手紙

■「北のシルクロードと蝦夷錦」展

7月22日から11月18日まで、函館市北方民族資料館の常設展の一部を利用して、「北のシルクロードと蝦夷錦」展を開催しました。日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究（B）「サハリンアイヌの交流と文化変容、その学際的研究」（研究代表者：中村和之・函館大学）の協力を受けて実施したもので、最新の炭素14年代測定で明らかにされた蝦夷錦の制作年代を紹介し、博物館が所蔵する蝦夷錦に関する資料を一堂に展示しました。

中村和之氏の協力を得て、リーフレットも作成しました。



■ジオ散歩「縄文時代の食を探る」

8月11日、戸井の浜で貝殻や海藻など「食べられるもの」を拾った後、戸井西部総合センターで標本

を見比べるとともに、戸井貝塚の出土品や地層のはぎ取りから縄文時代の食についての解説を行いました。



■市立函館高校「地域探究学習」

市立函館高校では、平成30年度から地域におけるフィールド活動での自立的な学習を目的としたプログラム「地域探究学習」に取り組んでいますが、当館でも令和4年度から2つの講座を設けて参加しました。①博物館で触れるアイヌ文化、②博物館で探る函館の縄文文化の2つで、①では函館市北方民族資料館と市立函館博物館の常設展と企画展「平沢屏山とその時代」を観覧し、10月に開催されたイチャルパでは設営と見学を実施しました。また、②では、実際の資料に触れた後、ミニ展示を体験しました。展示については、10月22日から一般公開をはじめました（展示中）。

参加者による展示。手前の土偶は顔がありませんが、顔の位置に鏡を設置して「どぐうになってみませんか」のコメントが付けられています。



■北の縄文スタンプラリー in おしま

7月27日から9月30日まで、「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録1周年記念事業として、函館市教育委員会と渡島総合振興局との共催で、「北のスタンプラリー in おしま」を開催しました。

先着順で、函館市出身のイラストレーター、ひづめみかへるさんデザインによるオリジナル缶バッジや縄文カード、啓発用クリアファイル、キャラクター「もんぐる」の反射板などを配布しました。



角偶のオリジナル・缶バッジ

■函館市美術品の預かり

生涯学習部生涯学習文化課で所管している函館市美術品を、当館美術収蔵庫へ移動し、博物館実習生とともに整理を行いました。作品は亀田福祉センター、亀田公民館、市民会館に展示されていたものです。

資料利用・調査・掲載等

■考古資料（「北海道志海苔中世遺構出土銭」等）	54件
■歴史資料（「戦友姿絵」等）	57件
■民族資料（「蝦夷錦」等）	35件
■美術資料（「アイヌ絵巻」等）	14件
■自然資料（「イシガレイ」等）	7件
■民俗資料	0件
■博物館史資料	0件
■その他	0件
合計	167件

博物館実習

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症予防のため、前半（9月1～14日）、後半（15～30日）の2回に分けて、博物館実習生を受け入れました。駒澤大学、日本大学、八洲学園大学が1名ずつ、北海道大学水産学部7名の計10名が、前半6名、後半4名で実習に取り組みました。資料の調査や整理のほか、講座での展示解説や展示（図書館）、カルチャーナイトでの案内など、多様な博物館活動を経験しました。



講座に向けて、作品解説のリハーサルの様子

— 博物館短信 —

博物館協議会

6月2日に令和4年度の第1回博物館協議会が開催されました。令和3年度の事業報告のほか、令和4年度事業の予定や、総合ミュージアム構想の現状などを報告しました。なかでも、総合ミュージアム構想については、様々なご意見をいただきました。

資料移動

4月21日、北洋資料館に展示されていた胸像・引張試験機を北方民族資料館および弥生収蔵庫に移しました。翌日には、恵山収蔵庫整理のため、市内の平石造船所で製作された木造船を旧戸井西小学校体育館に移動しました。

また、旧戸井郷土館に展示・収蔵されている資料を梱包し、順次旧戸井西小学校体育館に移動する作業をおこないました。今後も老朽化した収蔵施設から新しい収蔵施設への資料の集約と整理を進める予定です。



木造船の移動作業

旧ケース修繕

昨年度に続き、明治から伝わる木製展示ケースの修繕を行いました。このケースの修繕も3年目を迎え、令和4年度は3台の展示ケースを修繕しました。修繕したケースは、順次展示に活用しています。



復元した明治期の展示ケース

イチャルパ

10月8日、当館が保管するアイヌの方々のご遺骨の慰霊のため、函館アイヌ協会主催による「第7回函館イチャルパ」（先祖供養の儀式）が当館横の広場で実施されました。

博物館等で保管されているアイヌ遺骨等について

も返還の取り組みがはじまりましたが、当館でも返還や白老への移管に関する手続きを進めていく予定です。

戦友姿絵人気投票

7月26日～10月16日まで、当館所蔵「戦友姿絵」に描かれた人物の人気投票を行いました。

「戦友姿絵」は新撰組隊士中島登が、戊辰戦争で共に戦った仲間たちを描いたものです。全31名の中から中島登・近藤勇・土方歳三・山口二郎（斉藤一）・野村利三郎・中島三郎助・甲賀源吾を選び、お客様にシールを貼っていただきました。640票が集まり1位はダントツで土方歳三でした。



先着順で配布したオリジナル缶バッジ

カルチャーナイト

9月16日、3年ぶりに開催されたカルチャーナイトに参加しました。博物館実習生も来館者の案内や説明を担当し、106名の方々にご来館いただきました。夜間の展示室開放のほか、真っ暗な収蔵庫内を懐中電灯を片手に見学したり、茶室で掛け軸を見学する特別プログラム等を実施しました。



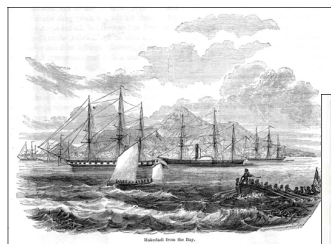
懐中電灯で液浸標本を見る観覧者

令和5年度企画展開催予告

■ 企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」

(令和5年6月27日～10月15日)

1854年、日米和親条約による箱館開港以降、外国人が函館の街を訪れるようになりました。彼らは風景や街の様子をスケッチや手記に残しました。歴史的な出来事と併せて、彼らの見た景色や感銘を受けたモノなどを展示します。また、西洋学問の集積地だった函館で、その知識をもって活躍した日本人もご紹介します。



『ペリー提督日本遠征記』の挿絵に描かれた箱館のまち



令和4年度職員構成等

館長 熊谷 正

管理担当	学芸担当
三浦正志（主査）	福田裕二（主査、考古・民俗）
高橋陽子	奥野 進（主査、美術・民族・自然）
小林政人	保科智治（歴史・民俗）
（会計年度任用）	内田彩葉（歴史・美術）
田島公聖	佐藤智雄（考古・民族）
（会計年度任用）	山本泰子（会計年度任用）

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

天野武春（主査） 水島弘美
佐藤珠江（会計年度任用）
奥山麻央（会計年度任用）
宮井七彩（会計年度任用）

SARANIP—サラニップ— No. 62

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP(サラニップ)—

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。